

平均正答率（平均正答数）

教科	国語	数学	英語（IRTSコア）（公開問題）
藤井寺市	59（8.9/15問）	52（8.2/16問）	486（3.4/7問）
大阪府	61（9.1/15問）	55（8.8/16問）	498（3.7/7問）
全国	63.9（9.6/15問）	57.0（9.1/16問）	499（3.7/7問）

※IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。

実施日 令和8年4月23日（木）

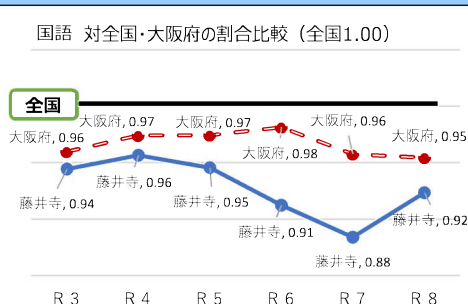
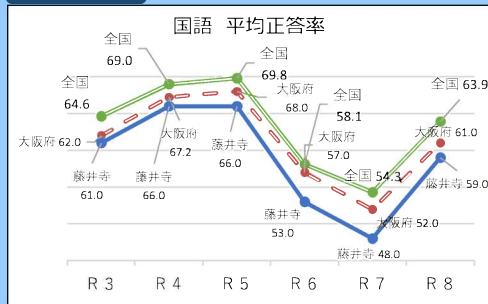
対象	藤井寺市		大阪府		全国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
中学校3年生	3校	443人	470校	64,476人	9,249校	841,873人

※文部科学省は、「各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計」としておらず、年度によって出題内容も異なることから、「過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要」としています。

「全体の平均正答率」と「対全国との割合比較」

※対全国比（全国の平均正答率を1とした場合の、藤井寺市（大阪府）の平均正答率を割合で表したもの）

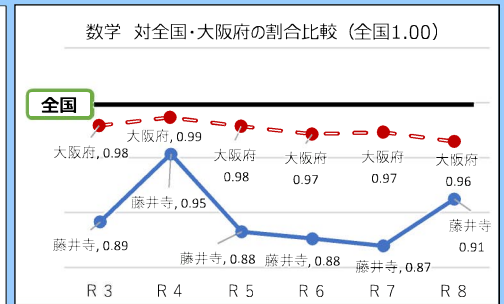
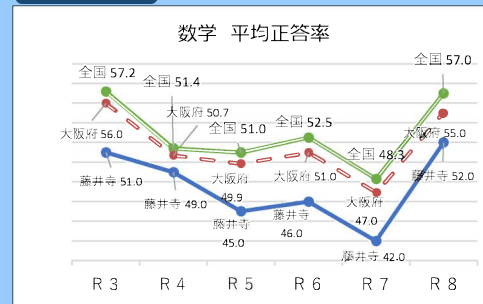
国語



全国の平均正答率を1とした時の本市全体の平均正答率の割合を見てみると、全国平均、府平均を下回った。経年変化で見ると、令和7年度までは下降傾向であったが、令和8年度は全国との差が縮まった。

			藤井寺市	大阪府	全国
学習指導要領 の領域	知識及び技能	(１) 言葉の特徴や使い方に関する事項	57.4	60.4	63
		(２) 情報の取扱いに方に関する事項	67	66.8	70.4
		(３) 我が国の言語文化に関する事項	－	－	－
	思考・判断・表 現	A 話すこと・聞くこと	60.9	60.2	63.9
		B 書くこと	63.9	64.5	67.4
		C 読むこと	52.4	56.8	59.7

数学



全国の平均正答率を1とした時の本市全体の平均正答率の割合を見てみると、全国平均、府平均を下回った。経年変化で見ると、一時的な上昇後に低下したものの直近ではやや改善傾向にある。

		藤井寺市	大阪府	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	62.3	65.6	67.8
	B 図形	42.8	48	48.7
	C 関数	49.8	52.8	54.8
	D データの活用	48.1	49.7	53.5

国語科・数学科の成果と課題

○成果 ●課題 （ ）内は平均正答率

【国語科】

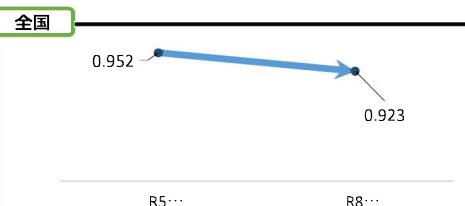
- 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかを問う問題（70.0%）では、全国平均水準であり、府平均を上回った。
- 段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかを問う問題（64.3%）では、全国平均水準であり、府平均を上回った。
- 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかを問う問題（28.0%）では、府・全国平均正答率を大きく下回った。

【数学科】

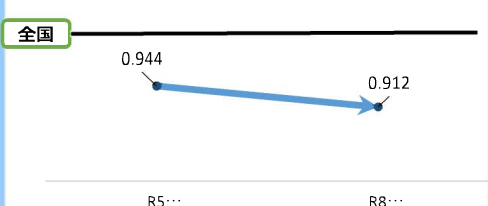
- 起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかを問う問題（59.2%）では、全国平均水準であり、府平均を上回った。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかを問う問題（22.1.%）では、府・全国平均正答率を大きく下回った。

小6（令和5年度）から中3（令和8年度）への同一集団の対全国比変容（平均正答率）

国語 小6から中3（同一集団比較）

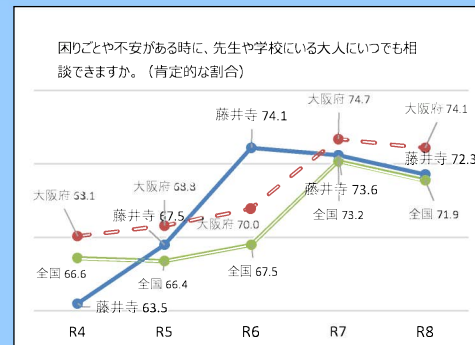
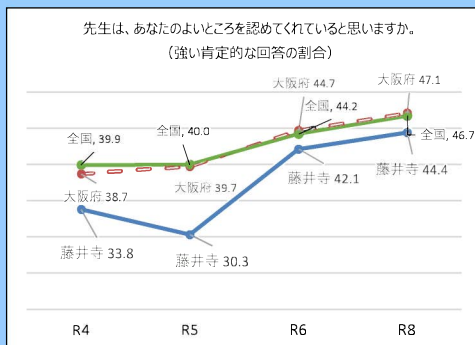
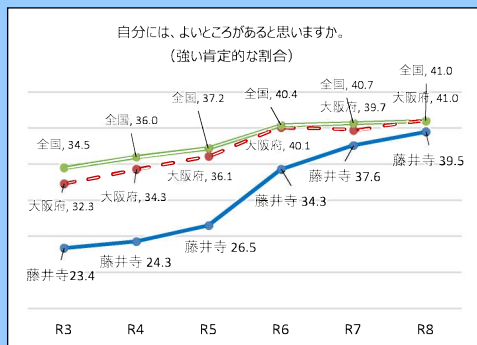


数学（算数）小6から中3（同一集団比較）



自己肯定感

今年度の調査結果分析と取組について



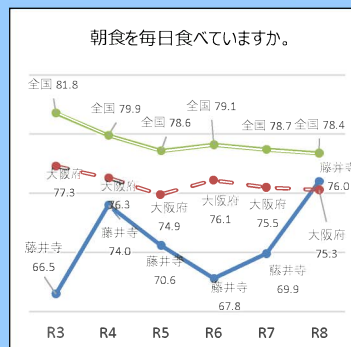
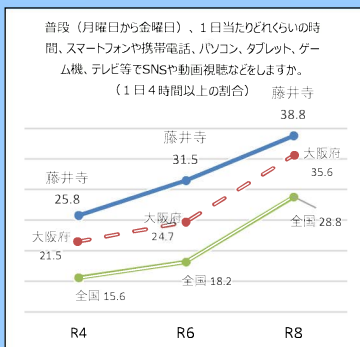
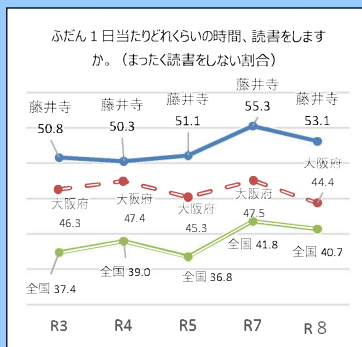
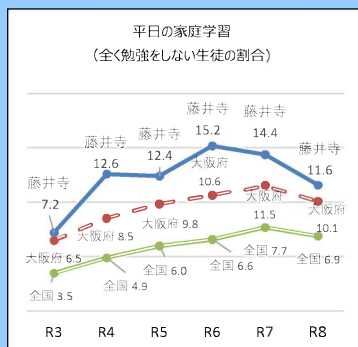
「自分には、よいところがあると思いますか」に対する強い肯定的な回答が向上し、全国に近づいています。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する回答が向上し、全国に近づいています。各校での、子どもの自己肯定感を高める特色ある取組継続の成果と見えています。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的な回答は、全国を上回る結果となり、日常的な声かけや対話を大切にするなど、教員と子どもの信頼関係が構築されている一定の成果が見られます。

家庭学習

不読率

スクリーンタイム

朝食

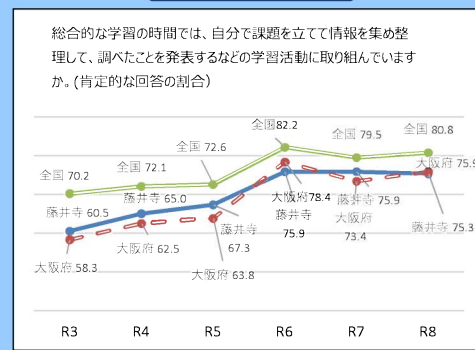
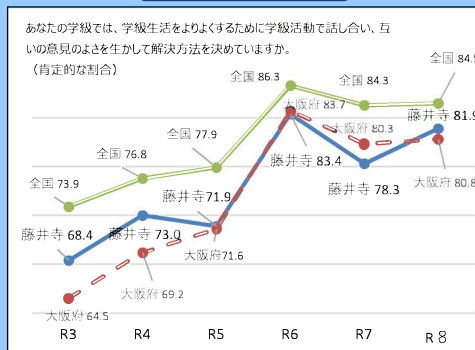
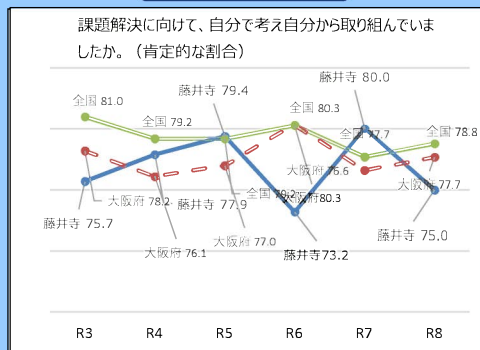


基本的な生活習慣・学習習慣の課題への一定の改善傾向が見られます。不読率については、家庭での読書時間の確保に加え、学校図書館の活用や授業と読書を関連付けた取組を一層充実させる必要があると考えます。スクリーンタイムの長時間化が進んでいます。家庭でルールを考える機会を持つなど、子ども自身が利用時間や生活習慣を振り返り、適切にコントロールする力を育成していく必要があると考えます。朝食の喫食率については、全国平均に大きく近づきました。食育指導や生活習慣に関する家庭への啓発など、学校と家庭が連携した取組の成果が表れてきています。今後も引き続き、望ましい生活習慣・学習習慣の定着に向けた取組を継続していきます。

主体的に学ぶ力

協働し解決する力

探究的な学び



「主体的に学ぶ力」「協働し解決する力」「探究的な学び」について、全国を下回る回答結果となりました。しかし、経年変化で見ると改善傾向にあります。生徒が、自ら課題を設定し見通しをもって主体的に学ぶ姿、他者との対話や交流を通して協働しながら学びを深める姿、学びや成長を実感し、未来に向けて学び続ける姿をめざして、今後も、自ら問いを立て、試行錯誤しながら課題を解決していく探究的な学びを推進していきます。